

図書館 around the みやぎ

シリーズ第70回 東北学院大学図書館

東北学院大学図書館長 松村 尚彦

1886年に仙台神学校として創設され、今年138周年を迎える本学は、図書館も長い歴史をもっています。

さらに時代をくだり1985年には、収容冊数約100万冊の規模を誇る中央図書館が完成しました。

これまで図書館は、研究支援を中心とした働きを担ってきましたが、2022年に新しい図書館長が就任して以降は、「教員、学生、図書館が協働して自律的な学習者を育てる」というビジョンを立てて、教育支援を強化することになりました。

支援するリファレンスのあり方などの研究をはじめたところ。また図書館サークル・ライブスという学生団体を立ち上げ、学生を中心とした図書館イベントの企画・立案にも取り組んでいます。



東北学院大学図書館
蔵書数 / 1,331,896冊
開館時間 / 通常期:午前8時30分~午後10時

librarian's selection 『球審は永野さん』

私は小学生のときから、テレビで高校野球中継を観戦するのが大好きでした。高校野球のテレビ中継が始まると、朝は第1試合から第4試合が終了する夕方まで、外に遊びに行くこともせず、テレビにかじりついて高校生達のプレーを見ておりました。

この本は、永野さんの親戚(永野さんの姪の夫)である大園康志さんが、永野さんが歩んでこられた人生と、甲子園で春、夏合わせて30年間もの長きにわたり、裁いてきた約300もの試合を、球審としての目線でのような思いをもってジャッジされてきたかを永野さんから聞き取り、取りまとめたものです。

因みに、本書のサブタイトルにもなっている「神様が作った試合」とは、高校野球史上最高の試合といわれている、1979年8月16日に行われた箕島高校(和歌山県)と星稜高校(石川県)の延長18回、箕島高校がサヨナラ勝ちを取った試合のことで、この試合で球審を務めていたのが永野さんであったことは本書で知りました。

本書は、永野さんが審判員、特に試合の行方を大きく左右する球審としての視点から、先述の箕島対星稜でのエピソードや江川卓投手を擁した作新学院対銚子商業の試合の中で起きた「誤審」についても触れられていて、高校野球ファンには興味のある一冊になっています。

資料情報・震災文庫班 高橋 誠治

図書館からのお知らせ INFORMATION

企画展「資料をまもり、つたえるー宮城県図書館の貴重資料保存修復事業ー」

宮城県図書館では、およそ6万点の古典籍を所蔵しており、国指定重要文化財・県指定有形文化財に指定されている資料は32件8,078点に及びます。

- 期間 令和6年6月1日(土)~8月25日(日)
●場所 宮城県図書館2階 展示室
●お問合せ みやぎ資料室(022-377-8483)

ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏
本誌タイトル「ことばのうみ」は、本館第8代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代的国語辞典『言海(げんかい)』(1889~1891年刊行)に由来する。

第78号
2024年7月発行
編集・発行 宮城県図書館
〒981-3205
仙台市泉区築山一丁目1番地1
TEL022-377-8441(代表)
FAX022-377-8484
ホームページ
https://www.library.pref.miyagi.jp/

表紙エッセイ 著者紹介

青木直之(あおきなおゆき)

1960年宮城県生まれ。
高校時代3年間図書委員を務める。
宮城県を退職後、公益財団法人宮城県

文化振興財団理事長を経て、2023年4月から現職。

KOTOBA
NO
UMI

ことばのうみ

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 78 2024.7

特集 図書館資料の簡易修理



図書館資料の簡易修理風景

かつて仙台市西公園にあったコンクリート造りの建物。今は「せんだいメディアテーク」に移転した「仙台市民図書館」です。その一階にあった児童図書コーナーに入ると、色とりどりの本が小学生の私を迎えてくれました。
並べられた背表紙を見ながら、お気に入りの本を探し、まるで宝探しにも似た時間。今でも書店や図書館の本棚を眺めていると、時がたつのを忘れてしまうことがあります。
強く印象に残っている本は、「エルマーのぼうけん」、「ツバメ号とアマゾン号」、「名探偵カッレくん」、「ドリトル先生航海記」など。ページをめくるたびに、ワクワクとドキドキとハラハラが止まらず、物語に引き込まれてゆきました。
インターネットが普及するのはまだまだ先であった昭和の時代。本は、見知らぬ世界や冒険に強い憧れを抱いていた子どもにとって、新しい世界を開き、夢を膨らませてくれる大切な宝物でした。
今は、様々なメディアで情報が発信されており、本の持つ役割は減少しているかもしれませんが、しかし、紙に書かれた文章から、想像力を膨らませていくことは、他では得難い体験であり、心を豊かにしてくれるものと信じています。
さて、宮城県図書館にも、素敵な子ども図書室があります。週末には「おはなし会」も開催されています。豊かな緑に囲まれたデザイン性豊かな図書館ですので、子どもの頃のワクワクとドキドキを思い出すためにも、ぜひ一度お越しください。

宮城県図書館長 青木 直之



図書資料の簡易修理

宮城県図書館では、年間約30万点を超える貸出があります。それらの資料の中には、1冊で通算300回をも超える貸出のある大人気の図書も多く存在します。それらの図書資料をなるべく多くの皆さまにご利用いただくため、こまめな修理作業は欠かせません。今回は、図書館で日々行われている図書資料の簡易修理作業についてご紹介します。



▲修理の必要な本は、毎日20～30冊ほど

図書資料の簡易修理とは

一般的に市販されている本は、個人が利用するために作成されており、長期・多人数で利用することは想定されていません。そのため、乱暴に本を扱うことがなくとも、資料が利用されればされるほど、ページが破れる・本の背が割れる・ページが脱落するという小さな破損が頻繁に発生します。その際に破損が大きくなってしまわないうちに修理を行い、次の方が利用できるようにする、これを図書館では、図書資料の『簡易修理』といいます。

簡易修理に利用される材料

皆さんが破れた紙を補修する際に、セロハンテープで修理を行った経験は無いでしょうか。短期間利用する資料であれば、セロハンテープでもきれいに補修できますが、数年後テープが劣化して剥がれたり、糊の跡が茶色く変色していたという経験がある方もいらっしゃると思います。図書館でも表紙等が破れた本を補修するために、テープを利用しますが、セロハンテープより劣化しづらいポリエステルや和紙を利用したテープで修理を行います。

ページが破れ欠けてしまった箇所の修復には、和紙を利用することもあります。和紙は洋紙より繊維が長く、本の用紙になじみやすいため、本の修理には欠かせません。和紙はそのまま使うのではなく、手でちぎって和紙の繊維を毛羽立てた『くいさき』を作成して使用します。

本の背表紙などを補修する際は、強度があり、加水して濃度の調節も容易なポリ酢酸ビニル樹脂系の接着剤を利用します。木工用ボンドなどでも利用される接着剤ですが、資料の酸化を防ぐため酸性度をより中性に調整した図書修理専用のものを利用します。また、それほど強度を必要としない場合には、でんぷん糊を水で溶かした接着剤を利用します。でんぷん糊は、修理した箇所に水を含ませることにより、簡単に剥がすことが可能で、将来再度修理を行う必要が生じた際に容易に元の状況に戻せるというメリットがあります。

これらのように図書館における修理では、図書資料が長期間利用されることを考慮して、安定・安全な材料を利用して修理を行います。



様々な形・素材の補修用テープ 和紙の「くいさき」



修理用接着剤(左)とでんぷん糊(右)

「ページが外れたとき」の修理

それでは、比較的、修理頻度の高い「ページ外れ」の修理をご紹介します。ソフトカバー図書の多くは、本の背を接着剤で固めた「無線綴じ製本」(あじろ綴じ製本)で作成されています。そのため温度変化などにより接着剤が緩くなって、背の部分が割れたり、割れた部分からページが外れたりすることが多く発生します。この時は、外れたページののど部分に接着剤を付けて、外れた部分に挟み込むように修理します。

1 外れたページの「のど」部分切り取り

外れた部分の元の接着剤を除去、新たに塗る接着剤分、前小口が飛び出るのを防ぐため、のど部分を数ミリ切り取ります。



2 接着剤の塗布

きれいになったのど部分に接着剤を塗布します。



3 外れた部分への差し込み

接着剤を塗ったページを外れた箇所に挟み込みます。その際、はみ出た接着剤などで前後のページが張り付かないように剥離紙などを一緒に挟みます。



4 乾作業

差し込んだページの接着剤が乾くまで、ゴムバンドなどで固定します。



5 完成



「表紙が外れたとき」の修理

ハードカバー図書は、本の表紙と本文部分が外れてしまうことがよくあります。その際に表紙と本体部分を接着剤で直接貼り付けてしまうとページが開きづらくなってしまいますため、あいだに「クータ」と呼ばれるボール紙を挟んで修理を行います。クータを挟むことにより、表紙の背部分と本体部分のあいだにすき間ができて、ページを開きやすくすることができます。また、表紙ののど部分など、力のかかる箇所には「寒冷紗」という綿などを粗く織った布を貼り付けて補強します。

1 クータの作成

修理する本の背部分幅を測定し、その幅に合わせたボール紙を三つ折りにして、本の厚さに合わせたクータを作成します。



2 寒冷紗の貼付

寒冷紗をページの高さに切り取り、見返用紙ののど部分に5mm程度、糊を塗布し、重ねて貼り付ける。



3 クータと本体の貼付

本体の背部分に接着剤を塗布し、クータを貼り付ける。



4 見返用紙と本体の貼付

寒冷紗を貼った見返用紙と本体部分ののどに糊を塗布し、見返用紙を本体に貼り付ける。



5 本体と表紙の貼付

クータを貼り付けた本体と表紙の背に糊を塗布して、貼り付ける。



6 寒冷紗と表紙の貼付

寒冷紗を貼った見返用紙と表紙ののどに糊を塗布し、寒冷紗を本体に貼り付ける。



7 乾作業

接着剤が乾くまで、ゴムバンドなどで固定します。



8 完成



図書館で日々行われている図書資料の簡易修理の一例について紹介しました。図書館では、所蔵した資料を一人でも多くの利用者の皆さまに快適にご利用いただけるよう保存・修理を行ってまします。もし図書館の資料を利用中に破損した場合は、遠慮なくカウンターまでお申し出ください。

多くの方に気持ちよく、長く利用していただけるように、皆さまにもご協力いただきながら、これからも図書館では日々できる限りの修理等を行い、図書館資料を大切に取扱いしていきたいと思ひます。

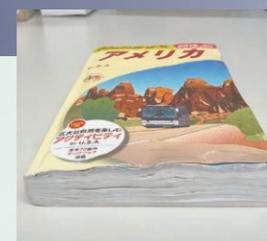


◆修理できない図書資料のおはなし

傷んでしまった図書資料の中には、修理することができず、利用もできなくなってしまうものがあります。色が付着したものや、一度水に濡れてしまった紙は、元の状態には戻りません。後にそこからカビが生えて広がってしまう恐れもあります。また、動物が噛んだり突いたりしてしまったものも、もう利用することはできません。

これらは、読書中に食べ物や飲み物を側に置かない、雨天の日を持ち歩く時は濡れないようにビニール袋に入れる、ペットが近寄れる場所に本を置かない等のちょっとした注意や心がけで防ぐことができます。

読んでいる本に何か分からない汚れやシミを見つけたら、多くの方は残念な気持ちになると思います。図書館資料を丁寧に扱うことは、自分の後に利用される方へのやさしい心遣いでもあるのではないのでしょうか。



水濡れによるたわみ



飲み物による汚損



動物による噛み跡